

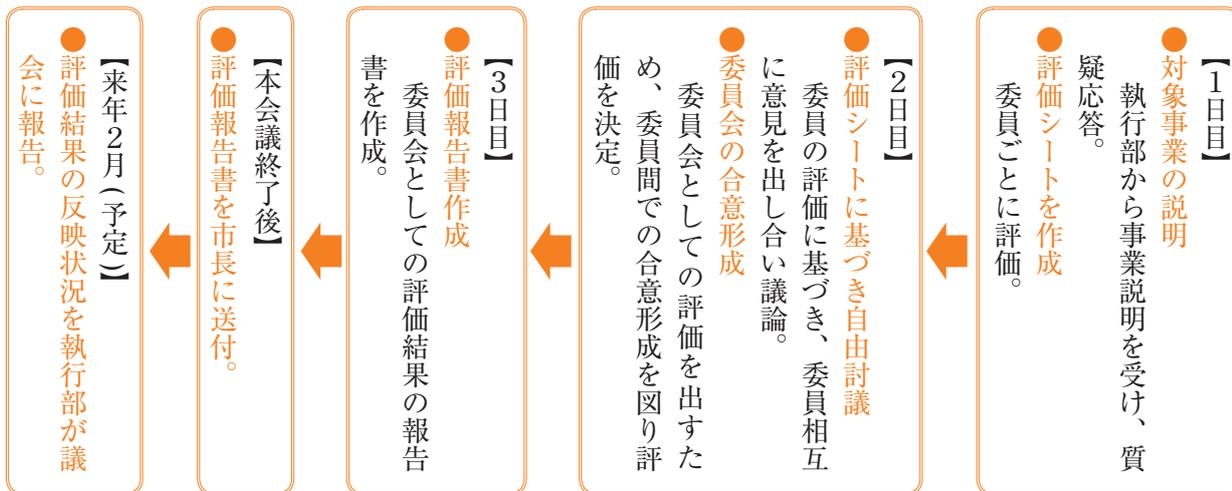
事務事業評価を実施

各 常任委員会で昨年度の事業の中から2～3事業ずつ選定し、3日間にわたり、事務事業評価を実施しました。はじめに委員個人ごとに事業結果に対する評価と今後の方向性を評価した上で、委員間で討議し、委員会としての評価を決定しました。

評価結果を執行部に伝えることで、今後の業務改善や予算確保などにつながっていくことが期待されます。



事務事業評価の流れ



総務常任委員会

◆【調査事業】 地域公共交通活性化事業

【事業の目的(抜粋)】
コミュニティバス及びあいのりタクシーを運行することにより、高齢者等の交通手段を確保し、地域公共交通の利便性の向上を図る。

【事業結果に対する評価】

おおむね適正

【事業の今後の方向性】

継続

【提言など(抜粋)】

引き続き、市民の要望に応え、実証運行を行って路線の分析を行い、利用増につなげていってほしい。

地域公共交通網形成計画に基づき対応していただきたい。

市民の利用を促進するために、情報発信に力を入れていただきたい。



◆【調査事業】 定住促進空き家対策事業

【事業の目的(抜粋)】

空き家等を有効活用し、定住促進による集落の維持を図るとともに、移住に要する経費の一部を助成することにより、人口の増加、地域の活性化等に資することを目的とする。

【事業結果に対する評価】

おおむね適正

【事業の今後の方向性】

改善

【提言など(抜粋)】

移住した方が安心して本市になじんでもらえるように、例えば、相談対応をする移住支援員を配置するなど、移住後の支援を充実させること。

引き続き、盆などの帰省時期等を利用して相談会を行うなどして、空き家物件の掘り起こしに力を入れること。

物件に対する情報と併せて豊後大野市の魅力を更に広く発信していただきたい。

厚生文教常任委員会

◆【調査事業】 周産期保健事業

【事業の目的（抜粋）】

周産期を契機として、子育てに関する不安及び経済負担の軽減を図ること、安心して産み育てられる環境づくりを推進する。

【事業結果に対する評価】

良好

【事業の今後の方向性】

拡充

【提言など（抜粋）】

安心して産み育てられる環境づくりは、少子化対策の観点からも非常に重要であり、更なる充実を期待することから事業の今後の方向性は拡充とし、特に以下の点を求める。

不妊治療費の助成について、希望する者に対しては、5年度を超える支援や更なる助成金の充実を検討すること。

歯科衛生士や保健師への業務的負担が、過度にならないよう、業務分担の見直しや増員を検討すること。



◆【調査事業】 事務局運営事業

【事業の目的（抜粋）】

教育委員会事務局が管理・運営を行うことで、教育行政の総括的な事務事業の円滑な推進を行う。

【事業結果に対する評価】

良好

【事業の今後の方向性】

継続

【提言など（抜粋）】

事務局運営事業は、教育行政の運営に必須な事業であること。また、三重総合高校が、素晴らしい成果をあげていることなどから事業の今後の方向性は継続とするが、特に以下の点について求める。

三重総合高校の活躍について、もっと広く市民へ広報すること。

「三重総合高校の明日を拓く会」への補助金については、十分に事業実施できるよう支援するとともに、必要があれば交付方法の見直しを図ること。

市内唯一の高校である三重総合高校存続のためにも、三重総合高校のための純粋かつ新たな支援策を導入するよう強く求める。

産業建設常任委員会

◆【調査事業】 戦略品目産地化プロジェクト 支援事業

【事業の目的（抜粋）】

戦略・重点品目の重点的な取り組みにより、産地拡大、技術向上、生産性向上、生産者の経営安定に繋げるとともに、「大分の野菜畑 豊後大野」としての地位確立を図る。

【事業結果に対する評価】

良好

【事業の今後の方向性】

継続

【提言など（抜粋）】

高齢化や人口減少が進む中、新規就農者が本事業に対しての理解を深めることに努めること。

予算の見直し（増額等）を行い、対象者の要望に対して取り組みの強化が必要である。

農業経営、規模拡大する上でも良好な事業であり、要件緩和も含め今後継続すべきである。

◆【調査事業】 市営住宅整備事業

【事業の目的（抜粋）】

老朽化した市営住宅の整備方針を決定し、計画的に事業を行うことで、快適な住環境を提供するとともに、財政負担の軽減を図っている。

【事業結果に対する評価】

良好

【事業の今後の方向性】

継続

【提言など（抜粋）】

長寿命化計画で用途廃止となった市営住宅を計画的に廃止し、入居者の転居などをすすめること。

老朽化した住宅の修繕に必要な予算の確保に努めること。

高齢者、障がい者、若い世代に配慮した住環境整備をすすめること。

建て替えにあたっては遅滞なく行い、定住促進を進める上においても戸建てを中心としたものとする

